

令和4年度鈴鹿市空き家等実態調査の結果概要

1 調査内容

空き家等候補の把握

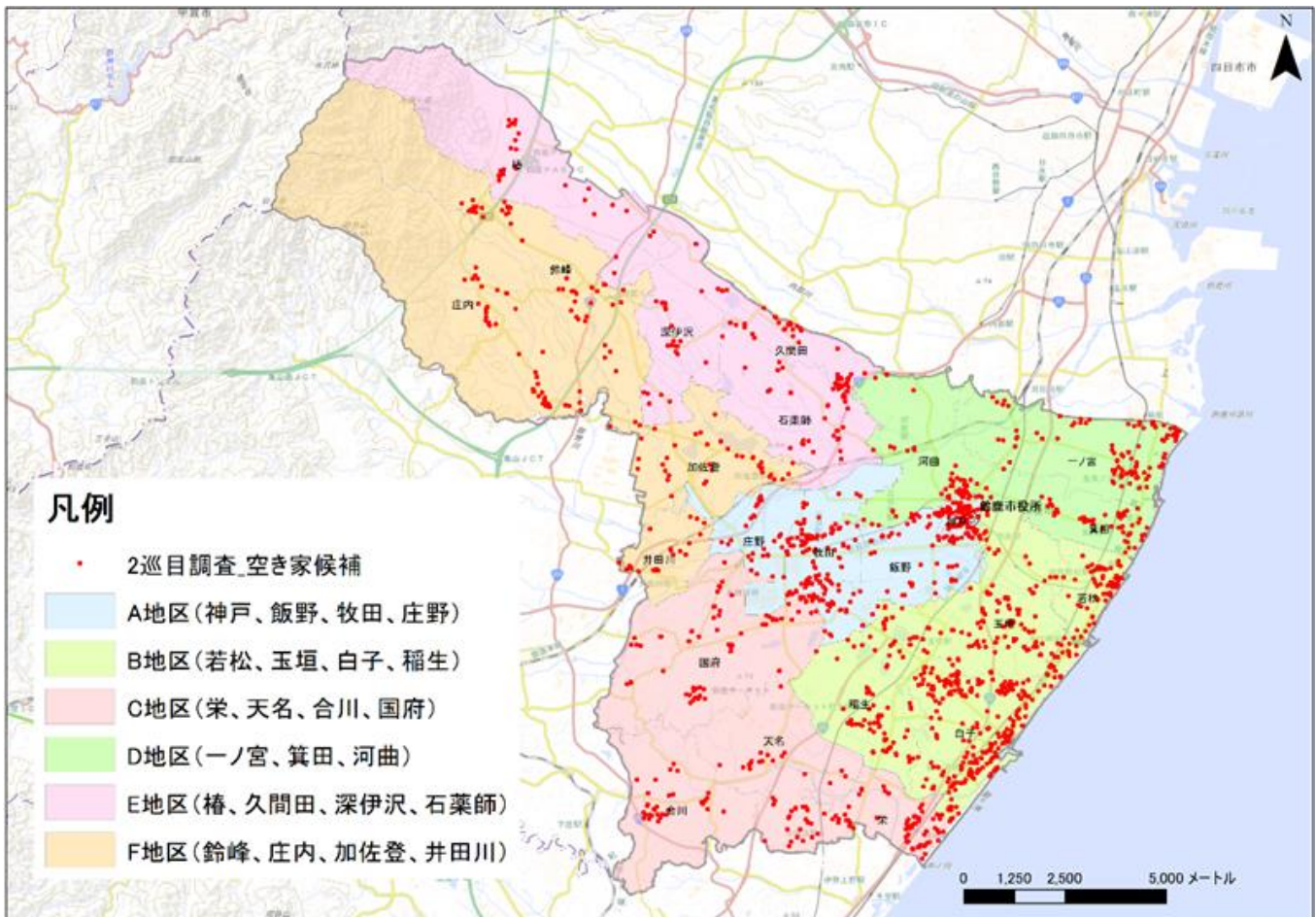
空き家等候補の老朽危険度判定

2 調査結果

空き家等候補件数：1,637件

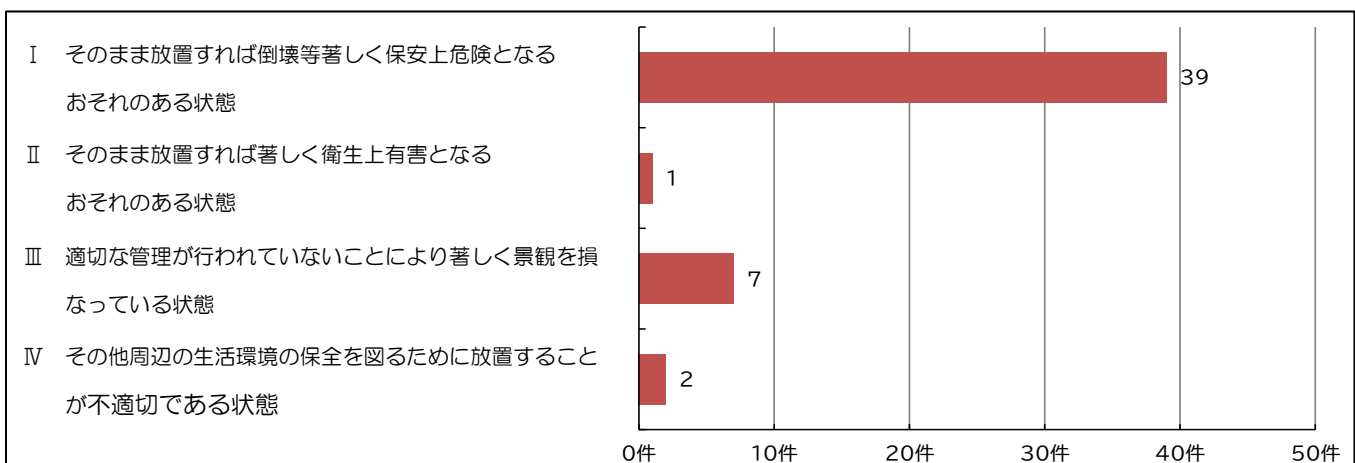
(前回調査：平成27年・28年度調査 1,132件)

【分布図】



空き家等 管理不全空き家等 件数：44件

(前回調査：平成27年・28年度調査 157件)



3 地区別空き家等件数

空き家等件数 : 河曲地区を除く地区で空き家件数が増加

白子地区が最も多く 277 件, 次いで玉垣地区 149 件, 神戸地区 125 件

増加件数では, 白子地区が 81 件, 次いで栄地区が 58 件, 若松地区で 39 件の増加

管理不全空き家等: 管理不全空き家等の該当基準に相違があるものの管理不全空き家等の件数が大幅に減少

地 区	空き家等総数 (件)			管理不全空き家等 (件)		
	H27・28 実態調査	R04 実態調査	増減	H27・28 実態調査	R04 実態調査	増減
国府	54	82	28	5	0	-5
庄野	29	38	9	3	0	-3
加佐登	23	41	18	7	3	-4
牧田	96	98	2	13	0	-13
石薬師	47	51	4	10	1	-9
白子	196	277	81	13	8	-5
稲生	59	69	10	7	2	-5
飯野	43	64	21	2	1	-1
河曲	44	43	-1	8	1	-7
一ノ宮	97	107	10	15	4	-11
箕田	27	49	22	5	3	-2
玉垣	114	149	35	11	1	-10
若松	49	88	39	9	4	-5
神戸	111	125	14	9	1	-8
栄	43	101	58	13	1	-12
天名	2	16	14	2	2	0
合川	18	32	14	8	2	-6
井田川	14	22	8	2	0	-2
久間田	11	41	30	3	1	-2
椿	4	24	20	0	1	1
深伊沢	4	27	23	3	2	-1
鈴峰	22	51	29	6	4	-2
庄内	25	42	17	3	2	-1
総 計	1132	1637	505	157	44	-113

4 地区別空き家率

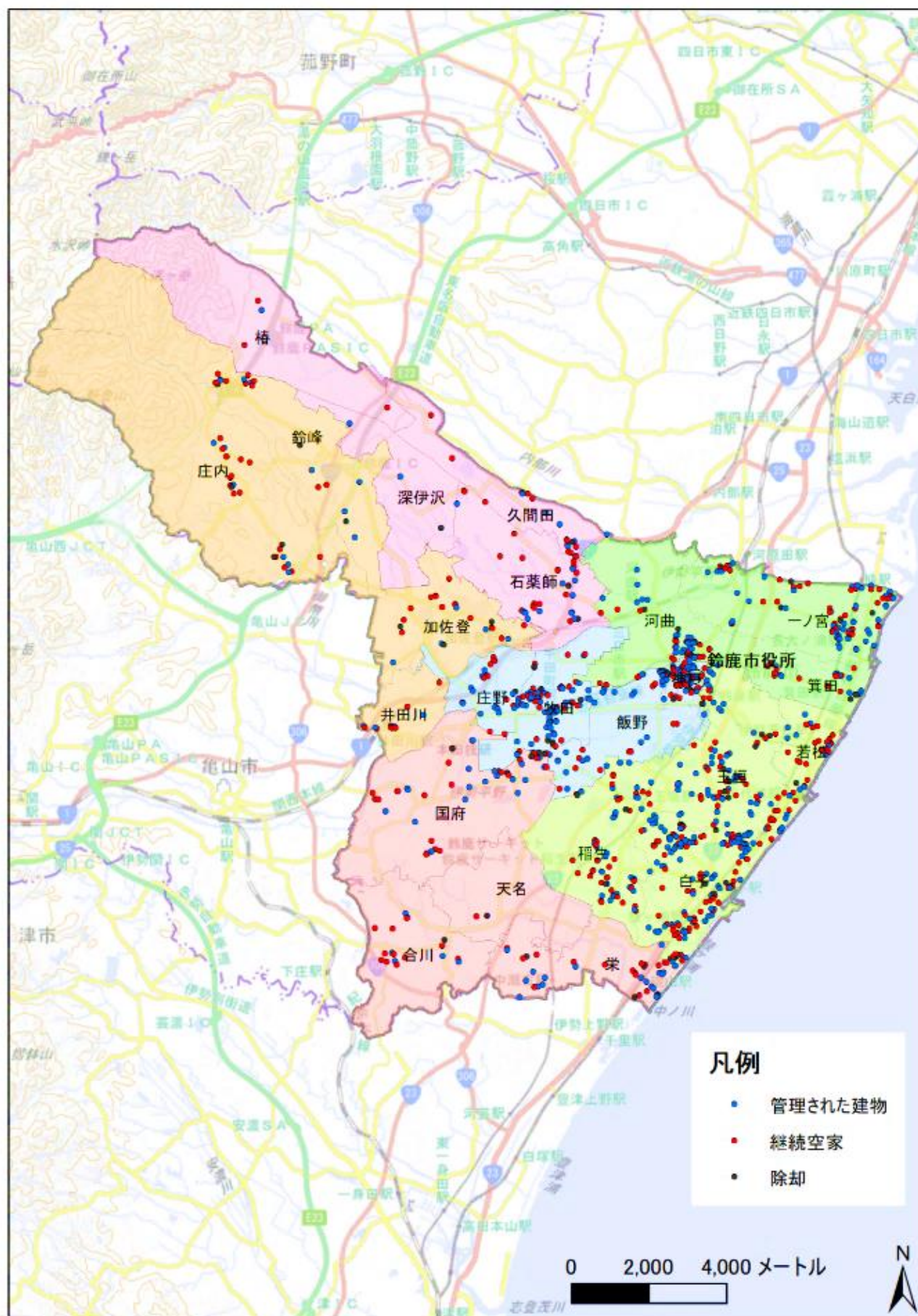
空き家率で見ると, 前回調査で高い値を示した神戸, 庄内地区に加え, 若松, 合川, 久間田, 椿, 深伊沢, 鈴峰の6地区が空き家率3%を超えていた。神戸地区の空き家率は飛びぬけて高い率を示している。

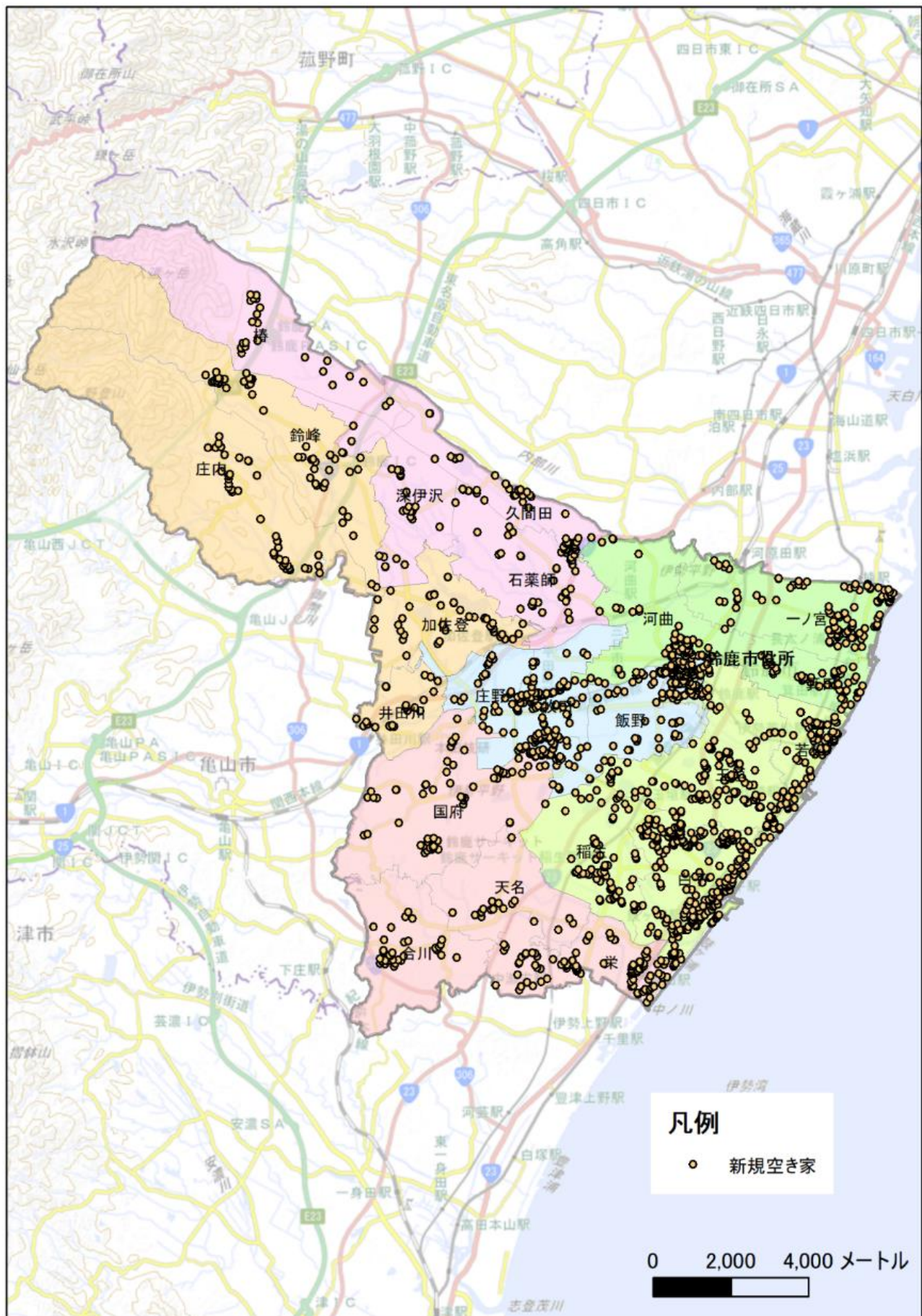
地 区	空き家率 (%)			地 区	空き家率 (%)		
	H27・28 実態調査	R04 実態調査	増減		H27・28 実態調査	R04 実態調査	増減
国府	1.2	1.9	0.7	若松	2.0	3.7	1.8
庄野	1.5	2.7	1.2	神戸	5.4	6.5	1.1
加佐登	1.1	2.1	1.0	栄	1.0	2.4	1.4
牧田	2.2	2.5	0.3	天名	0.2	2.2	2.0
石薬師	1.8	2.1	0.3	合川	3.1	4.7	1.6
白子	2.1	2.7	0.7	井田川	2.1	2.6	0.4
稲生	1.8	2.0	0.2	久間田	1.7	5.3	3.7
飯野	1.2	1.4	0.2	椿	0.8	4.1	3.2
河曲	1.2	1.3	0.1	深伊沢	0.3	3.2	2.9
一ノ宮	1.8	2.1	0.3	鈴峰	2.1	3.8	1.7
箕田	1.6	3.0	1.5	庄内	3.4	4.9	1.5
玉垣	1.4	1.7	0.3	総 計	1.7	2.5	0.7

R04 空き家総数のうち独立住宅件数(本調査結果)

空き家率 = $\frac{\text{R04 空き家総数のうち独立住宅件数(本調査結果)}}{\text{R04 空き家総数のうち独立住宅件数(本調査結果)} + \text{戸建住宅の世帯数(R02 国調)}}$

【前回調査（H27・28 実態調査）空き家等の分布図（管理された建物、除却された建物、継続空き家）】





【市街化区域/市街化調整区域での空き家等分布図】

市街化区域及び市街化調整区域との重ね合わせを以下の通りである。空き家等候補件数 1, 637 件のうち、市街化区域内は 1, 123 件、市街化区調整区域内は 514 件となっている。

